



就任のごあいさつ

健診にも
“かかりつけ”を野村病院予防医学センター 所長
石坂 裕子

4月に、野村病院予防医学センターの所長に就任いたしました石坂です。

当センターは、地域に根ざした保健・医療・福祉の拠点として三鷹市の医療と住民の健康を守る役割を担う、野村病院併設の健診施設です。歴代の所長と職員の皆様が築き上げた特長を大切にしながら、日本の健診の展望を見極め、さらに進化していきたいと考えております。

私は1985年に筑波大学を卒業後、秋葉原にある三井記念病院の内科研修医、循環器内科を経て、総合健診センターに勤務いたしました。当時の研修は「体で覚える」的な過酷なものでしたが、同期の医師とほぼ1年中病院に詰め、

あらゆる症例に触れた経験が糧となっています。健診分野で働くようになり、健診の結果説明の際には、さまざまな病気の経過を熟知していることが役立つと強く感じました。

健診や人間ドックは「隠れた病気を見つけること」、「発症予防・重症化予防」が最大の目的ですが、単に「数値や画像の異常がない」状態を確認する場ではありません。検査結果の背後にある受診者一人ひとりの生活や考え方に寄り添い、「どうすれば、より自分らしく、長く元気に過ごせるか」を受診者自身が考えるための支援をするのが健診施設です。

また、健康な方にとって、医療に関する相談ができるのは健診の時だけという場合も少なくありません。「野村病院予防医学センターへ来れば、正確な健康状態チェックに加え、身体の疑問になんでも答えてくれる」、そんな安心感から「来年もまた来よう」と思っていただけのような、健康に関する“かかりつけ”を目指します。健診が野村病院を知っていただくための初めの一歩になれば幸いです。

今後は、当センターの強みをさらに磨きつつ、新たな特色も加えていく必要があると考えます。目標を達成するためには多職種との円滑なコミュニケーションや連携が欠かせません。一日も早く野村病院の仕組みに慣れるように頑張りますので、これからよろしくお願いいたします。

石坂先生に聞きました！

①医師を志したきっかけ

小学生のころ、シュバイツァーの伝記を読み、医者になって僻地に行けばノーベル賞が取れるかもと思ったことがあります。

②休日のリラックス法

休日は家事でつぶれていました。食器を洗うのが何もなく考えずにできるので好きです。

③読者へのメッセージ

今までの病院では訪問看護ステーション、地域包括支援センター、施設外健診といった機能がなかったので、これから知りたいと思います。

退任のごあいさつ

野村病院予防医学センター 名誉所長 瀬谷 彰



2026年3月31日をもって予防医学センター所長を退任いたしました。当センターには2010年4月に着任しましたので、16年が経過したことになります。この間、ともに働いた職員の皆様はもとより、ご協力をいただいた病院の関係部署の皆様、ご指導をいただいた野村理事長はじめ診療部の先生方に感謝申し上げます。

健診業務は地域や職域の方々の健康を支える重要な役割を担っています。在任中は人間ドック健診の強みである受診当日の医師の結果説明や保健師による保健指導を

効率良く行えるシステムの充実に注力してきました。当センターはかかりつけ健診施設として地域医療とのさらなる連携も重要と考えます。

これからも時代や環境の変化に伴いさまざまな課題が出てくるものと思いますが、新任の石坂所長のもと予防医学センターはさらなる発展が期待できます。引き続き野村病院はじめ慈生会全体として変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

新年度に臨んで

理事長 野村 幸史



石坂裕子予防医学センター 新所長をはじめ、多くの方々を迎えて新年度をスタートできますことに感謝申し上げます。

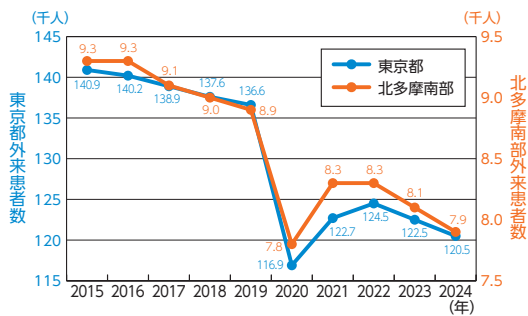
さて、東京都は4月16日に「令和6年医療施設（動態）調査・病院報告結果報告書」を公表しました。病院数・病床数の減少に加えて、過去のデータを重ね合わせると外来患者数の減少が顕著なことや病床利用率の低迷が見取れます。このような中、令和8年度は病院や地域に対して新たな病床配分を休止する旨の保健医療局長通知が発出されました。前述した低い病床利用率等を受け止めての判断でありましょう。人口減少はまだ先と考えられていた東京においても、病院医療は地方と同様に縮小段階に入ったと思われる。

野村病院が果たしている医療機能は、予防医学センターが「かかりつけ健診機能」を通じて、健康寿命延伸に対する最良の手段提供を。外来診療においては「専門医機能」と「かかりつけ医機能」を。入院診療は、高齢者救急に対応する「地域包括医療病棟」、急性期治療を終えて社会復帰を目指す「回復期リハビリテーション病棟」、進行した病状の方々に対して最善の療養状況を整える「緩和ケア病棟」を。退院した方には、自宅において療養を可能とするための「訪問診療」と「訪問看護」を行っています。また、併設する地域包括支援センターでは「高齢者なんでも相談」を実施しています。まず健康維持の取り組みを、次に万が一が一発症しても最適な診療に繋げること、さらに最期までこの地で療養できるための活動、言い換えれば保健・医療・福祉の地域完結をこれまで培ってきた良好な連携によって進めているのです。

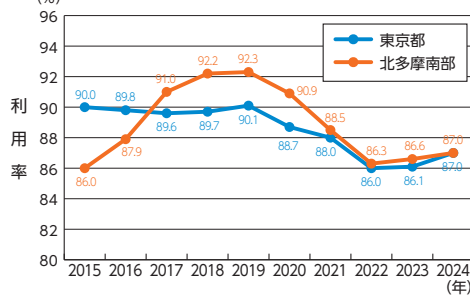
病院医療の縮小が求められる今日、野村病院の事業継続には、今まで以上に信頼される病院創りと、合理化・効率化を両立させることが不可欠です。病院機能については、前述した観点から関係者・関係機関のニーズも汲みながら整備してきましたので、一人ひとりが専門職の矜持と野村病院を代表する気持ちを持って従事することによって信頼醸成は進むと認識しています。一方で合理化・効率化は、残念ながら大規模病院やグループ法人がリードしていると思われる。合理化は一人ひとりが自身の行動を理由づけること、効率化は業務プロセスに重複等がなく必要十分なことで、特に後者は質として解釈されています。合理化・効率化の実際は、ルール化、標準化およびDX化によって進めますが、野村病院での成否の鍵は、当院勤務や医療界での経験の長い方が先頭に立って、新しい知識・技術に謙虚に向き合って取得することにあると考えます。慣行や経験則に頼らず、実感としては、調べる・確認する・手を動かしてみるといった手間を惜しまないことでありましょう。縮小段階に入った医療環境下において、皆様の理解と協力が不可欠なことを申し上げ、新年度に臨む挨拶とします。

東京都と北多摩南部の推移（外来患者数）

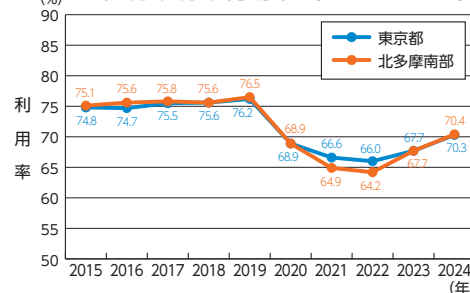
1日平均外来患者数（一般病院（再掲））／2015-2024年

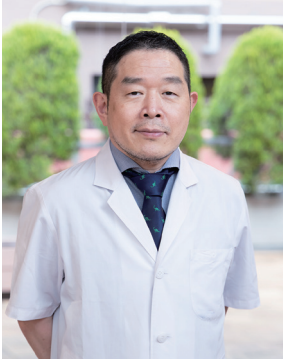


療養病床病床利用率（2015-2024）



一般病床病床利用率（2015-2024）





さらなる機能強化を目指して

野村病院 病院長 佐藤 文哉

皆様、こんにちは。日頃より野村病院をご支援いただき、誠にありがとうございます。

2025年度を振り返りますと、診療体制の充実や療養環境の整備、スタッフの専門性向上など、各部門が連携しながら機能強化に取り組んだ一年でした。職員一人ひとりが受診者に真摯に向き合い続けた姿勢に、心から敬意を表します。

令和8年度診療報酬改定が6月より施行されます。今回の改定では診療報酬本体がプラス改定となり、医療従事者の賃上げ・処遇改善が重要な柱に位置づけられました。当院でも職員の待遇改善に積極的に取り組み、「働きやすく、働きがいのある職場」の実現を目指していきます。また、医療DXの推進もさらに強力に後押しされており、電子的な診療情報の連携強化やICT・AIを活用した業務効率化が評価される体系へと移行しつつあります。当院でもデジタル化による業務

改善を進め、スタッフが本来の医療・ケアに集中できる体制を整えていきます。

また、頻発する地震や洪水などの自然災害への備えも、病院として欠かせない責務です。災害時においても受診者の安全を守り、地域の医療を止めないために、院内の防災体制の点検・強化、スタッフへの訓練、備蓄の充実を継続的に進めていきます。いざというときに地域の皆様の支えとなれるよう、平時からの準備を怠らない姿勢を大切にします。

三鷹をはじめ地域の皆様にとって頼れる病院であり続けること、そして連携先の医療機関・介護施設の皆様から「野村病院と連携できてよかった」と思っただけの存在であること、それが私たちの目指す姿です。地域に根ざし、地域に選ばれる野村病院であり続けるために、これからも全力で取り組んでいきます。引き続き支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

進めています、ICT

2月の連休を利用して、電子カルテシステムの更新を行いました。従来の「MI・RA・Is/AZ」から最新の「MI・RA・Is V」へ移行したことで、画面の操作性や診療情報へのアクセス速度が向上しています。システム刷新により、医療安全の確保と業務効率の改善、両面での効果が期待できます。あわせて、院内の無線LAN環境とセキュリティ基盤も大幅に強化しました。院内どこでもスムーズにネットワークへつながる環境を広げ、より強固な守りを備えたことで、医療者が安心してデジタル活用を推進できる体制が整いました。

また昨夏より、病院の予約専用電話（0422-79-6637）へAI電話自動応答システムを導入し、一次対応の効率化を図っています。さらにこの6月からは、新たにWeb予約を開始し、外来診療や市民健診、予防接種などの予約が病院ホームページから直接行えるようになります。もっと身近で、さらに便利な病院へ。窓口の「つながりやすさ」を追求してまいります。

新しい仲間が増えました

昨年度は年間を通じて医師2名を含む48名の常勤職員と11名の非常勤職員が入职を果たした野村病院。今年度も春の訪れとともに、新しい仲間が加わりました。4月1日付で入职したのは看護師6名、訪問看護師1名、理学療法士3名、作業療法士3名、言語聴覚士1名の計14名です。入职初日に行われた約1日かかりのオリエンテーションでは、病院長による当院の役割と機能の説明をはじめ、各種規程やシステムの紹介、部署長らとの顔合わせ、院内案内などが行われました。さらに、理事長の講義は三鷹市の歴史や豊かな自然環境にまでおよび、非常に充実した内容となりました。



参加者からは「緩和ケア病棟の説明を受けて、野村病院は地域の病院であるとの印象が強く残りました。これから学べるものがたくさんあると感じています」（2階病棟看護科 看護師・本堂 春生さん）、「引越したばかりで不安もありましたが、周囲の環境への理解が深まり安心することができました。これから地域医療に貢献していきたいです」（リハビリテーション科 理学療法士・志岐 杏さん）などの声が聞かれました。新入職員たちは翌日からそれぞれの部署に配属され、新生活をスタートさせています。

睡眠にまつわる市民講座を開催



講座の様子

当院が業務を受託する三鷹市連雀高齢者なんでも相談センター主催の市民公開講座「睡眠で健康寿命を延ばそう～

専門医が教える快眠の秘訣～」が3月14日、野村病院予防医学センターのラウンジで開催されました。講師は野村病院内科担当で、予防医学センターでは人間ドックの判定医も務める小川和雅医師。講座では、多くの人がそうとは気付かずに罹患しているという睡眠時無呼吸症候群（SAS）について、国内外のデータや研究を交えながら、主な症状と治療法、期待できる治療の効果などが詳しく紹介されました。代表的な治療法である持続陽圧呼吸療法（CPAP）のマスクを手に取り使い方を説明する場面では、約40名の参加者も興味津々な様子で聞き入っていました。小川医師は、「人は人生の1/3を睡眠に費やすほどで、生命維持に欠かせない営みです。SASは放置すると命に関わる病気ですが、治療すれば生活の質の改善を見込めるので、ぜひ検査を受けてみてほしい」と呼びかけました。

企画と進行を務めた三鷹市連雀高齢者なんでも相談センターの社会福祉士の仲村洋三さんは「参加者の高い関心と、前向きな反応に手ごたえを感じた」とのこと。来年の公開講座にもご期待ください。

緩和ケア病棟のお花見



満開の桜に目を輝かせる早生善則さん



「すごい、きれい」と何度も口にされた唐木榮子さん

病院正面玄関の隣に仲良く並んだ2本の桜。これらは2011(平成23)年12月に緩和ケア病棟が開設された前後に植えられたソメイヨシノです。当時はまだ小さな苗木でしたが翌春には健気にも花を咲かせ、第1回のお花見を開催することができました。今では幹の直径が40センチを超えるほどに成長し、野村病院の「顔」になっています。

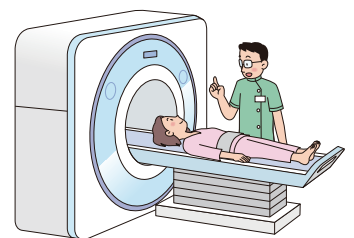
去る3月31日、この2本の桜を愛でる15回目のお花見が開催されました。本来ならば、病棟の患者さんそろって木の下に繰り出すところ、当日はあいにくの小雨模様。そこでお一人ずつ車いすやベッドで病院玄関まで移動し、雨に濡れないよう配慮しながら楽しみました。ご家族からは「面会に来るたびに、この桜を見せてあげたいと思っていたんです」と喜びの声も聞かれました。



CT、MRI 検査をもっと身近に 連携サービス“TONARI”のご案内

昨年6月のMRIの機種更新に併せて、24時間検査予約ができる地域医療連携サービス“TONARI”を導入しました。CT、MRIがオンライン予約できるほか、画像やレポートの即時参照が可能になるなど、利便性を追求し、皆様のご利用をお待ちしております。ただ今、この“TONARI”をダウンロードしてくださるクリニック様を大募集しています。診療後やお昼休みのわずかな時間にご説明と設定に伺いますので、ご興味のある先生はぜひ、野村病院財団本部(電話:0422-47-4848)までご連絡をお願いいたします。もちろん、これまで同様、電話予約も受け付けています。

第3世代の最新AIが搭載され、短時間で高精細な画像を提供でき、これまでのMRIでは不可能とされていた骨の撮像も可能になった新機種のドイツ・シーメンス社製MAGNETOM Sempra1.5Tをぜひご利用ください。



電話 0422-47-5478 (放射線科直通)
受付時間 月～土曜 9:00～19:00